

**Q** 廃校利用した施設を今後どう運営していくのか

**A** 地元運営協議会との連携を図り  
利活用に努めたい



渡辺勝弘議員

**問** 旧小坂小学校は高齢者の軽運動施設「小坂ふるさと館」として開設されているが、その後の利用状況を伺う。

約2200人である。様々な広報活動を行うことにより、町全体での活用が図れているものと考え、当初予定の成果となっていると認識している。

**町長** 5月の本格始動から1月末までの延べ利用団体は139団体、利用人数は

**問** 小坂地区以外の方々への周知は万全だったか。

**企画情報課長** 周知については、万全であるかの判断は困難だが、小坂地区以外の利用が58%であることから、一定の認知がされていると考える。

**問** 高齢者の軽運動施設となっていくが、今後はどのように取り組むのか。

**企画情報課長** 介護予防室、介護予防サポーター養成講座を継続する。また、介護保険法の改正を受け、新しい介護事業に移行していく。

**問** 利用が増えれば、日中の管理者と夜間の管理者を考えるべきではないか。

**企画情報課長** 運営については小坂地区運営協議会にお願いしている。今後も協議会からの相談に対して、町も一緒に考え支援していく。

**問** 旧大木戸小学校を歴史資料館として、集めた膨大な資料をどこまで維持管理していくのか。

**生涯学習課長** 国見町民がこれまで築き上げてきた遺産である。町では、これまで守り継がれてきた膨大な資料を後世に受け



小坂ふるさと館での介護予防サポーターによる運動教室

継ぐことを目的として再整理を進める。

**問** ボランティアの協力を維持していくための方策はあるのか。

**生涯学習課長** 文化財ボランテニアや郷土史研究会と協力しながら、確保、研究などによって育成に努めていく。

**問** 子どもたち、学生たちの意見を反映できるものはあるのか。

**町長** ガイダンスの内容や情報発信の方法など、若い世代の方に興味を持って知ること、学び、伝えること、地元と町が十分連携することで、地域の世代を超えた取り組みも重要と考えている。

## Q 阿津賀志山防塁の観光客の受け入れ態勢は

## A 周辺整備の必要性から委員会でも検討している

阿津賀志山防塁の発掘調査結果が昨年6月にまとめられた。改めて調査の目的を伺う。

**問** 阿津賀志山防塁の発掘調査結果が昨年6月にまとめられた。改めて調査の目的を伺う。

や文化に親しみ、歴史観光の素材として地域振興にも貢献する。また、子どもたちを含め郷土意識を養い、文化財保護意識の普及を図るためである。

**生涯学習課 長** 防塁が築かれた当時の様相を示すことで、奥州合戦についての理解を深め、東北の歴史

発掘調査を基に策定された阿津賀志山防塁整備の基

**問** 発掘調査を基に策定された阿津賀志山防塁整備の基

本方針を伺う。

基本方針として、はじめに防塁の規模、遺構の範囲をさらに明確に調査し、国の未指定の地域について追加指定とともに土地の公有化を進める。さらに保存状態が良好な箇所については、土塁と堀の機能、そして大規模な特性を活かしてスケール感を実感できる整備を進める。

**生涯学習課 長** 整備の期間はどのくらいか。

基本構想では、平成27年から36年までの10年間としている。また、地形の良好なところとしては国道4号線北側及び下二重堀地区を挙げて整備を進める。

ただいまの2か所以外に整備を考えているところはあるのか。

すでに指定になっていく山頂部、防塁の始点地区、遠矢崎地区など計5か所が挙げられている。

**問** 先に整備を進めるとしている国道四号線の北側は、防塁がよく見えるだけでなく見晴らしが大変よいので観光スポットとして有力な素材と考えられる。

また、下二重堀は、

阿津賀志山がよく見え、その方向に防塁が築かれていくことがよくわかり防塁の形が最もよく保存されている。

さらに

下の南側の池には、平泉から分けていただいた美しい古代ハスの花が広く咲き、個人やグループだけでなく、最近では観光バスで見に来る人々もいる。



中尊寺ハス池から見た阿津賀志山防塁

**企画情報課 長** 下二重堀地区及び国道四号北側地区において、歴史まちづくり計画、あるいは、阿津賀志山防塁整備基本構想に周辺整備の必要性をうたっており、現在整備と活用のための検討委員会でも検討しているところである。

観光客の受け入れ態勢をどのように整備していくのか。

整備の期間はどのくらいか。

また、下二重堀は、